

日本近代・育児書目録

著者	横山 浩司
出版者	法政大学社会学部学会
雑誌名	社会志林
巻	50
号	2
ページ	63-115
発行年	2003-12
URL	http://hdl.handle.net/10114/5638

日本近代・育児書目録

横山浩司

本目録の目的

近年、社会史・歴史社会学の領域においては、従来、歴史学や個別学問の成立・変遷史などで扱われてきた歴史資料と、それらによつては必ずしも扱われて来なかった歴史資料とが、新しい視点、視角あるいは解釈格子によつて見直されたり、「発見」されたりして、多くの成果を産出してきている。

しかし、特に明治期以降の文献資料に関しては、個別の研究目的のもとで取りあげられる資料が、必ずしも十分な適合性を持たず、また必要な代表性を持っているとも言ひ難いケースが見受けられる。それは、扱おうとする時代の全体にわたる史資料の、一定の量と質を備えた文献目録が作成されないままに、時として恣意的な資料の選択や、あるいは偶然の遭遇による採択が行われているからであるとも思われる。こうした傾向があるとすれば、先に述べた新たな成果とされるものの一部も、当然に、その意義を低下させることになるのはやむを得ない。

ここに示す、近代日本の子どもの養育に関する文献資料目録は、決して完全なものではないが、しかし、百数十年の変遷の全体を見渡すために不足があるとも思われぬ。明治期以前のものについては、古くは『日本教育文庫 衛生及遊戯篇』（黒川眞道編纂、一九

一一（明治四四）年、同文館）や『日本教育文庫 心学篇』（同前）に、比較的に新しくは『子育ての書 全三卷』（山住正己・中江和惠編注、一九七六（昭和五一）年、平凡社）に相当の量のものが再刻されており、新生児や乳児へのケアを一部に含む周産期医療に関しては、『日本産科叢書』（呉秀三・富士川游選集校定、一八九五（明治二八）年、大澤菴蔵梓）という大部のもの以来いくつかがあるが、これらと併せて本目録が活用され、より高い精度の成果が生みだされれば幸いである。

本目録の構成

ここに示す目録について、その収録の範囲に関して、まず記しておく。

時代については、はじめの三冊をのぞき、明治の初年（正確には明治三年、一八七〇年）より、昭和四二年（一九六七年）までの、およそ百年間である。ここに収録・記載した最終年は、松田道雄の『育児の百科』が刊行された年であり、その前年にはB・スポックの育児書が邦訳されている。はじめの三冊、嘉永および慶応年間の石田勝信、桑田立斎のものを収録した理由については、後に記す。

当目録の主要部分は、一般家庭向け、とりわけ母親向けのいわゆる「育児書」である。それは、家庭における、主として乳幼児の養育の具体的な方法について記したもので、発育過程における哺乳と摂食法、衣類と寝具、栄養、衛生と健康、さらにしつけ（躾）を含む、生活全般にわたることがらに関わる様々なケアについての啓蒙と技術教示のための通俗本である。これらは、国家による、いくつかの専門家集団を通じての、生と身体に対するポリティクスの、直接的で具体的な端末部分であると見ることもできよう。

単行本としての育児書に加えて、日用・家庭・生活百科（例えば、一八八九年『日用百科要法』、婦人の生活・人生宝典（例えば、一九〇四年『婦人宝典』、家政・家事書（例えば、一八九三年、下田歌子『家政学』、家庭向け医学書（例えば、一九一五年『家庭医学大事彙』）などの中、育児項目を記載したものも収録した。（目録では「」内に当該項目を示している。）また、女性雑誌の育児特集号（例えば、一九一八年『婦人世界・春季増刊・健全育児号』や、育児を扱った女性雑誌の付録本（例えば、一九三一年『育児百科宝典』、官公庁（例えば、一九四三年、厚生省人口局『育児指針』、自治体（例えば、一九三九年、東京市役所『育児通信』）やミルク会社（例えば、一九二五年『育児の葉』）などが発行したパンフレット類、および育児記録・報告集（例えば、一九二四年、報知

新聞社家庭部『実験子供の躾け方』も加えてある。

これらの他に、産科・小児科関連の医学書（例えば、一八八八年、広田長『児科必携』）、統計調査・資料書（例えば、一九〇二年、三島通良『日本健体小児ノ発育論』）、胎教（例えば、一九二六年、下沢瑞世『新胎教』）、家庭教育書（例えば、一九〇一年、読売新聞社編『家庭の教育』）、保育学・幼児教育学（例えば、一九二六年、下間芳克『遊戯教育』）、乳幼児・児童心理学（例えば、一九二四年、高島平三郎『児童心理講話』）などの、子どもの養育（論）に関わってエポック・メイキングな性質を持つと思われるいくつかのものも収録してある。

こうした領域の目録ではあるが、悉皆的な調査によったものではない。筆者が架蔵するものの目録がもとの本体であり、その一部は十数年前の拙著（『子育ての社会史』一九八六年、勁草書房、二〇〇〇年復刊）に掲載し、またその後作成したものを、個人的には研究用に提供したこともある。そうしたものに、国会図書館所蔵の明治期の育児書を加えて構成したものが、以下に示す目録である。（著者が架蔵せず国会図書館所蔵のものには、書名の後にアステリスクを付けて示してある。）こうして全体では、およそ百年間にわたる、一千冊弱の目録となっている。ただ、こうした結果、必ずしもバランスの良いものとはなっていないことは付け加えておかなければならない。明治期の国会図書館蔵のものは、時代的な特性もあるが、パンフレット程度のもも多く、そのために全体の量が増しており、それに比較して、特に一九六〇年代以降のものは、おそらくその出版点数に比べて手薄であることを免れていないからである。

本来、書誌としては、判型とページ数を記載すべきであることは承知しているが、今回は省略した。また、発行年の各見出しには元号を用い、括弧をして西暦を表示しているが、それはここに収録したほとんど全ての書籍が、その奥付などに記載する発行年に元号を使用していることによる。なお、書名、著者名、出版社名に用いられている漢字の旧字体の表記は新字体に改めてあるが、旧仮名遣いはそのままにした。

『小兒養育金礎』と『愛育茶譚』について

本来、この目録が扱う時期範囲に先んずる二種を、加えて記載した理由について記しておく。これらについてのみ詳しくその性格について述べることは、ややバランスを欠くことになるが、やむを得ない。

石田勝信による『小兒養育金礎』（せうにやういくがねのいしずへ）あるいは「こどもそだてがねのいしずへ」などと振り仮名されたものがある。）、後に『小兒養育心得』、『大人撰生小兒養育心得』とも改題され、また勝信の子、石田勝秀によっても出版されていたこれらの書は、ちょうど幕末（十九世紀半ば）から明治（二十世紀初年）にかけての五十年間にわたって、その内容を若干変更しながら継続された、興味深い一連の育兒書群である。これらは、京都五条橋の東側（当初は六条東側であつたらしい。）に所在した、主として脾肝薬玉圓（ひかんやくわうゑん）という内服薬を製造販売していた薬屋が、その効能書きとして無料で頒布していた、およそ二十丁から三十丁の和綴じ本である。印刷は、時期に相応して木版から金属活字版にまで至る。筆者の手元には、嘉永本（一八五一年）から明治三十四年本（一九〇一年）まで八冊のものがあるが、こうした性質のものであるので、その出版時期に関してはいささか不明のものがあるのはしかたないことであろう。また、いずれの前書きにも、同書が、文化十（一八一三）年に初代の石田勝元（鼎貫と号す）によって書かれて出版されたという記述があるが、これは『国書総目録』にも見えず、おそらくは初版は嘉永本であろう。

ここでは内容の委細には立ち入らないが、これら一連のものが大いに注目される点について幾つか述べておく。これらはまず、単なる薬の効能書きを離れて、出産時の注意から子どもの養育の仕方まで至るごく具体的な記述を含んでいること。著者は、和漢薬には通じていたとしても、子どもの養育論の専門家ではなく、いわば当時の通俗医学の立場（それはいわゆる「虫」の觀念によりながらの病のイメージ化に現れている。）に近いところにいると思われること。しかもそれが（最終期には）中国・四国地方から北陸・中部・東海・関東に至る多数の販売所を通して頒布されていたこと。そして明治期に入ってから、基本的な立場を変えずにしながら新しい考えや方法を取り入れようと努めているところ、などである。これらの諸点からこの育兒書群は、前時代に引張られながらの歴史的な変化の様相を、通俗のレヴェルで「定点的に」觀察するには格好の史資料であると思われるので、あえて明治期以前の分も掲載した。

桑田立斎による嘉永六（一八五三）年の『愛育茶譚』は、今日の者からすれば何よりもまず、その題名に目を惹かれる。ずっと後の大正期には「愛児」ということがしばしば登場する。その後昭和期に入ってから「愛育」の語も用いられるようになり、今日にまで続く母子愛育会が創設されたのが一九三四（昭和九）年である。（もっとも、一八七九年に『愛育全訓』の書名が見えるが。）本書では「愛育」に「そだてやう」と振り仮名したり、また「親愛」を「かあひがる」、「愛情」は「かあいさ」と読ませており、子どもを可愛がる親の様子が捉えられていて、面白い。ただそれだけではなく、内容はこの時期の一級の育児書である。

著者の桑田立斎（名は和、一八一〇―一八六六年）は、坪井信道に医学を学んだ蘭医である。江戸深川に小児科を開業し、放浪する子らのなかに多くの痘病を見てその治療に活躍して有名になり、後に小児十万人痘苗接種を計画し、蘭医モーニッケから牛痘苗の培養を習ってその実行を進めるなどした。（この項は、橋輝政『日本医学先人伝』一九六九年、医事薬業新報社による。）この書の肩書きに、「深川草医」とした心意気も良い。

桑田はこの書を、近頃は、種痘によって痘瘡の病は免れることはできるようになったが、「姑息（めさき）の愛に溺れて」父母が「（子の）育養を誤」らないようにと思って書いた、と記す。大判（二十六糎）で三十五丁ある本書の内容について桑田は、中国や西洋の諸説を、本邦に適應させるべく各々の良いところを撰んで折衷したものだとも述べている。たしかに、江戸中期に出された日本最初で最大の体系的育児書である、香月牛山の『小児必要養育草』（一七〇三（元禄十六）年）とはその趣を大きく変えており、また、後の明治期に入ってから翻訳・翻案書のさががけのようなところもあり、さらに何よりも出版の時期が近接しているゆえに、この目録に加えておいた。

時期区分論

一般的に言うてこうしたものについての時期区分論は、安易に行うことはできない。いくつかの例外の指摘と、異なった関心や視点からの異論がすぐに出てくるからである。

それぞれの育児書の内容には立ち至らず、目録から外形的に見えてくることを直接に扱うことによって、時期区分は成立する。い

わば、書誌的な関心からするところの区分である。例えば、育児書の著者たちがどのような社会的、あるいは学問的なカテゴリーに属し、その各比率が百年の間にどのように変遷したかといったことを計数してみれば、グラフを示しながらの時期区分も可能である。実際、本育児書目録を見れば気がつくことであるが、著者となった教育者の中に、家政教育系の女性が登場し、また撤退してゆく時期であるとか、医者が主導的になる時期、医者と教育者の独占的状态に対して心理学者が参入してくる時期、などを見いだすことができるであろう。また、公的な機関あるいはそれに近い者たちが育児書の類いの出版・頒布を開始する時期や、主として「主婦」を読者対象とした出版社の参入の時期など、出版元のありさまを見ての時期区分もできよう。前項で桑田立斎の著書に関わって「愛育」の表現について触れたが、一千弱の書名だけを見てもそのスタンスの取り方や方向性が面白く、幾期かに区分したくなるかもしれない。「優れた子」を求めて「異常」性を排除しようとするありさまや、「新しい躰け」を促すことに躍起になる時期の出現時期なども目録上から見え、興味を惹かれるところである。

ここでは、上述のような外形的なことがらも一定に視野に入れながら、当然、育児書の内容を考慮して、それぞれの時代を代表する性質を持つと思われるものをピックアップすることによって、ひとつの時期区分の可能性を考察してみる。(なお、以下の叙述では、殆ど余計な攪乱要素である元号の使用は必要最小限にとどめることとする。)

(一) 明治維新後にまず目につくものは、翻訳の育児書群である。一八七四年の『子供育草』から九五年の『幼児心意発達之理』を一区切りとして良いだろう。その初期のものの原著者は、ゲッセル (Getchell, F. H.)、アメリカ合州国の医者、原著は一八六八年刊)、クレンケ・ハルトマン (Klencke, H.)、ドイツの医者、原著は一八七〇年刊、抄訳。ハルトマンの関与は不明)、チャアス (Chavasse, P. H.)、イギリスの医者、原著十二版は一八七五年刊、抄訳)と三カ国にまたがっているが、どれもいわば最新のものの翻訳あるいは抄訳である。(この項は、小嶋秀夫「明治初期の翻訳育児書」一九八九年、日本医史学雑誌、第三五巻第一号による。)そして九五年のものは、ごく初期の児童心理学書ともみなされるプライヤー (Preyer, W. T.)、ドイツの生理・心理学者、原著は一八八二年刊)の訳書である。

この間には、一八八八年にドイツ留学から東京帝国大学医科大学に戻った広田長が小児科教室を開き、同年に『児科必携』を編纂している。これは主としてドイツの小児科関連の医学書から取捨選択した、小児疾病治療のハンドブックであって育児書ではない。しかし、これ以降、今日に至るまで、非常に多くの育児書が東京（帝国）大学出身の小児科医によって書かれることになる、その始発点となった医学書であるといつてさしつかえない。（この辺りの事情は『東大小児科の生い立ち』一九五九年、東大医学部小児科学教室同窓会刊、を見るとよく分かる。）育児書としては、広田の著書の翌一八八九年に出された三島通良の『ははのつとめ』が、ヨーロッパの医学書を参考にしながらも、日本の当時の現状を踏まえて良くこなれたものになっており、相当地に広く読まれ、また版も重ねるものとなっていた。これは、見方によっては前項で述べた桑田立斎のものとも呼応する性格を持つが、日本近代の初期の代表的な育児書である、といつて良い。

欧米のものの翻訳・抄訳から編訳、そしてそれらを充分に咀嚼した原著への流れを確認しながら、この二十年間ほどを「翻訳期」とすることは可能である。ただ他方で、おそらく読み手の側からの要望もあって、江戸期から続く従来の性格ものも継続していることも確かである。ただ、新たに成立してきた家事・家政書の育児項目は翻訳書を通して欧米化をはかり、女性教育を通してそれらが一般に浸透していく様相も、この時期に見て取ることができるであろう。

(二) 『ははのつとめ』を著した三島通良は当時医科大学におり、後に日本の学校衛生学の創設に関わるが、それ以前の一九〇二年にまとめられた『日本健体小児ノ発育論』で学位を得ている。これは日本の小児の発育データをまとめた初めてのものであり、これ以降三十年間ほどの育児書の基礎資料となった。また、一九〇六年の『家庭及教育』は子どもの養育を含む家庭教育に関する大著であり、欧米の最新の文献資料を広く漁るとともに自前の資料も盛り込んだ、翻訳期の集大成であると同時に次の時期の開始も告げる研究・啓蒙書である。この二書が敷いた、資料と研究（者）の国産化の線の延長に、一九二一年の内務省編纂『児童の衛生』および二三年の内務省衛生局編『育児と衛生』を見いだすとすれば、この二十年間ほどを、国家による次世代形成掌握とその制度化の時期と呼べるかもしれない。特に前者は、その前年に内務省が国家の総力を挙げて保健衛生調査会を組織し、翌年の児童衛生展覧会の開催とともにその

成果をまとめた大判のもので、育児書の「国家モデル」とでもいうべき状態のものである。言うまでもなくこれらの背景には、深刻な乳幼児の死亡率の高さがあり、これは、その抑制に傾けた国家総力の「成果」であり、生のポリティクスの近代的形態の成立であるといえよう。

こうした時期の育児書には、例えば、東京日本橋の開業医、小松貞介による『小児保育法』（一九〇九年）がある。小松は、病気の子どもを連れてきた親が、「私は始めての子持ちで育児上の経験はなし、之れでも満足に育ちましょるか」といつてくる、とはしがきを書きはじめ、出産時には必ず新教育を受けた「新産婆」を撰ぶことが肝要で、子どもの「健不健を知るに就いては……小児科専門の医師に健康診断を受けることが必要」であると断言する。ここには、育児の経験を（もつ者を身近に）持たない母親と、彼女ら（の不安）を専門家制度につなげることによって、子ども自身を直接に制度の前に出現させようとする育児書の役割が見いだせる。これもまた、この時期に成立する、二重の意味での生と身体の家国家ポリティクスの一環である。

（三） 前述の時期と重なりながら、一九一三年の『赤ん坊展覧会』や一八年に『赤ん坊の研究』を出した西山哲治、二八年の日本両親再教育協会『子ども研究講座、全十巻』以来、多くの領域の学者などを組織して育児関連書を送りだした上村哲弥、二三年の『育児の心得』から始まって多数の育児書を著し、阪神地方に三田谷治療教育院を設立して『子のための展覧会』（三〇年）を開くなどして活躍した三田谷啓など、いわば民間の育児オーガナイザーが出現してくる。これは、一九三〇年代にまで至る時期である。これらの背景に、キリスト教社会主義者・安部磯雄の『子供本位の家庭』（一七年）を置くか、我が子のために学校まで創立してしまう根っからの自由主義者・西村伊作の『我子の教育』（二三年）を置くかで、あるいは翻訳されたマリー・ストープス『母性愛』（二四年）を置けばまた異なった様相にこの時期は見えてくるであろう。いずれにしても、子どもとその養育・教育に焦点化された「家庭」が成立し、育児が時代文化の一大テーマになった時期である。いくつかの全集・講座本は、その端的な現れでもある。

この時期はまた、『主婦之友』をはじめとする大衆女性雑誌がこれを中心的に主題化し、新聞社が育児講演会を開催し、育児書の出版にも参入し、また全国的な健康優良児選びを行い（三〇年）、さらにラジオ放送が『我子の為』（二九年）と題したラジオ放送講座

とそのテキストを出版した時期でもあった。朝日新聞社の『標準育児講座・全三巻』（四〇年）や主婦の友社の『母の愛育全集・全五巻』（四二年）は、マス・メディアによるこうした流れの集大成である。これらに呼応して、素人の育児経験そのものがメディアを通じて語られたり、自治体によって経験談が募集されたりすることも起きており、この時期は、いわば育児（論）が大衆社会化された時期であるともいえよう。この一九一〇年代から三〇年代に至る「育児文化成立期」とでも呼びたい時期には、戦時と敗戦直後の時期を越えて一九六〇年代に直結する諸要素がほとんど全て現れていることには注目すべきであろう。

（四）一九三七年の日中戦争開始の翌三八年に厚生省が設立され、四一年には「大東亜共栄圏」の将来を見越した「人口政策確立要綱」と「国民優生法」が出される。近代における生のポリティクスが強固に、隅々まで覆うようになる三十年代からの国家総力戦の時期は、イデオロギッシュなあれこれを取り除いてみれば、戦後にもそのまま持ち越されてくるものと見える。四二年の「乳幼児体力向上指導要綱」にもとづいて配布された「体力手帳」は、同時期からの「妊産婦手帳」と併せて今日の「母子健康手帖」にまで続くものである。また、四三年の厚生省人口局の『育児指針』は、戦後も厚生省児童局の『小児保健指針』（五〇年）、「こどもはこうして育てる」（五三年）などとなって継続される。四七年に文部省検定済の中等学校教科書『育児』が出されたことは、国家による国民の再生産過程に育児書が完全に組み込まれたことを示すものでもある。敗戦後の被占領下においては、米国政府児童局の『あなたのお子さん・育児教育読本』（五一年）といった育児書が付け加えられたことも、同様なプロセスの一つであろう。さらに、雑誌『主婦之友』の四一年「育児報国号」と、四六年の「特輯・これからの育児法」のスタンスに、どれほどの違いがあるのかを見くらべてみるのも面白い。いずれにしても戦時と敗戦後にまたがるこの時期を、子どもの養育が完全に国家制度化された時期として一区切りにすることが可能である。

ただ戦時に固有のことごとくとして、物質的窮乏と生命の危機の下での子どもの養育が、『戦時下の育児法』（四三年）、『決戦下の育児』（四四年）と追いつめられてゆく様を見逃すわけにもいかないことも確かである。

もうひとつ、一九三〇年代から五〇年代には、特に子どものしつけ（戦前は多くは国字で「躾」、戦後は平仮名で「しつけ」の違い

はある。)に関する育児書が多く見られる。「皇国民」の形成と「民主的な子」こそを、という価値の転換がもたらした現象であるが、身体へのポリティクスとして注目すべきことであろう。

(五) 五〇年代から、この目録の範囲を越える七〇年代の初め頃までを「赤ちゃん百科」の時期と名付けてみる。「嬰兒」「愛児」は口語の「赤ちゃん」と変わり、少産少死傾向の中での子ども養育は、遺伝と胎児教育も視野に入れながら、性格と知能の直接的、具体的形成に及ぶまでになる。例えば、五二年の『愛児の知能の伸ばし方』(武政太郎・心理学者)、五三年の雑誌付録『ママさんのため・赤ちゃん百科事典』、五四年の『児童相談 子どもをよくする心理学』(山下俊郎・幼児教育・心理学者)の辺りから始まり、六三年『はじめての赤ちゃん おなかの中から育児がはじまる』を経て六七年の『頭のよい子に育てる本』(林麟・脳生理学者)、『英才教育 あなたの子どもの能力開発』へと続く。この間に起きた、アメリカ合州国の「スプートニク・ショック」に端を発するとされる「教育の現代化」(高度化)や「受験戦争」の始まりが、こうした動向にいつそう棹さしたといえよう。これはまさに、城山三郎が後にカリカチュア化して描いた『素直な戦士たち』(七八年)の世界の出現であった。明治期にいちど切断されて乳幼児の養育に特化された育児書が、完全に学校教育にまで接合した「百科」になったのである。ちょうど一九六〇年に、その半数が病院管理の下に生まれるようになった赤ちゃんに(松田道雄の意図はそうではなかったにしても)『私は赤ちゃん』(六〇年)、『私は二歳』(六一年)と「全人格」を付与するようになったことは、この養育の百科化と無縁とはいえないであろう。一九三〇年代を引き継いで、心理学者や大脳生理学者もが育児書に強く関与しながらのこの傾向はまた、今日の育児(論)の状況を直接に準備するものであったと思える。

ただ、この時期の諸傾向の底流には、近代が一貫して追及してきた子どもの養育に対しての科学・技術の知による啓蒙的指導や制度的指導・援助とは、異なった方向を考えようとする性質の動きがあったことも見いだせる。その中心には、松田道雄がいた。彼は一九四九年の『赤ん坊の科学』と、同年に書かれた(この目録にはないが)論文『精神の風土学』(『思想』二九六、七号)に自身が引き裂かれて以来、さまざまな格闘をしながら、六〇年代から七〇年代の育児論の一方を担った。結局それは未完に終わったと思われるのだが、七〇年代以降に、毛利子来や、幾人もの育児論の専門家や「素人」の女性たちが、新たな視点と姿勢を持った議論を展開するの

に力を貸すものであったことは認めなくてはならないであろう。

* * *

雑駁な議論で、結局は五期に分けてしまったこの時期区分論も、およそ百年間の一千冊弱の育児書の類いを、いくらかゆるやかに分節化して眺めるには、何ほどか役には立つであろう。もっとも、さらに別の大きな視点を加えてこれを見なおしてみれば、各期にも違った意味づけがされたり、期と期の関連あるいは移行にも、より精確な見取り図を析出できるかもしれない。その視点とは例えば、この百数十年は、近代家父長制による女性と子どもへの支配構造（再生産権力）の成立（と叛乱）の過程であるとか、子どもの養育への専門家支配の確立（とそれへの異議）、あるいは人間についての科学・技術知の制度化（と脱制度化）の過程、さらには、人間社会がかかえたひとつの「自然」としての「子ども（とその成長）」への近代的な統制支配の精緻化（とそれからの逸脱・脱走）の歴史として、などとする視点である。こうした議論はすでに目録解説の範囲を越えているが、いずれにしても、この目録を何らかの形で活用して戴ければ幸いである。

日本近代・育児書目録

発行年	著者名	書名	〔記載項目〕	出版社
嘉永				
4 (1851)	石田勝信	小児養育金礎		石田丹波介・石田近江介
6 (1853)	桑田立斎	愛育茶譚		(版元不明)
慶応				
1 (1865)	石田勝信	小児養育金礎	葉王圓能書	石田丹波介・石田近江介
明治				
3 (1870)	石田勝信	小児養育金礎	葉王圓能書	葉王圓本舗
4 (1871)	古川正雄	ちゑのいとぐち		雁金屋清吉
5 (1872)	於菟子	啓蒙智恵之環	〔教育の論〕	牧野吉兵衛
7 (1874)	ゲッセル (村田文夫訳)	子供育草 (上下)		玉山堂
8 (1875)	ゲッセル (村田文夫訳)	子供そたて草 (上下) *		汪鯉楼
9 (1876)	クレンケ、ハルトマン (近藤鎮三訳)	母親の心得 (上下) *		近藤鎮三刊
	惟慕虞徳編 (横地君美訳)	暑中衛児法 *		浅田助次刊
	チャアス (沢田俊三訳)	育児小言初編 (智巴士氏) (一・二)		気海楼
10 (1877)	ワルレン (石橋好一訳)	小児養育談 *		文部省
	望月 誠 編輯	子育の草紙 第一号 第六号		由己社
	高島祐啓	育嬰草 *		誠求堂
	中原昌発	子女教育論 (巻之上) *		大阪・中原昌発
11 (1878)	石田勝信	小児養育金礎	脾肝葉王圓能書	葉王圓本舗
	フット編 (片山平三郎抄訳)	小児のわるくせ *		片山平三郎刊

12 (1879)	フート編 (片山平三郎抄訳) 石川県第一高等学校 編 関根太郎右衛門 編 アンモン (三宅虎太訳) ゲッセル (村田文夫訳) 英国・スウェーデン原著 鈴木孝達 ダッレー 13 (1880)	子そだて草 一名・両親の心得* 女のしつけ* 愛育全訓 附、児守調* 母親之義務並育児法 (幼婦女教科書) (上巻)* 子供そだて草 (上下)* 産科要訣 妊婦の心得 育幼草*	片山平三郎刊 金沢・益智館 山崎清七刊 文会堂 愛古房 松村九兵衛・島村利助 耕文社 神戸・福音社 東京競英堂 杉山由哲刊 丸善 薬玉圓本舗 為生堂 矢守貫一刊 (版元不明) 普及舎 聖治堂 津・山内養順 小笠原書房 磐陽堂 文明堂 補元堂 京都・春風堂 石原千城刊
14 (1881)	ドベイ (櫻井精訳) ボル (杉山由哲訳) プール (大井鎌吉訳) 石田勝信 太田喜三治 矢守貫一 編 16 (1883)	夫婦養生論 [其欲スル処ニ從テ男若クハ女ヲ挙ルノ法] 育児須知 (上中下)* 母親の教* 大人摂生 小児養育心得 脾肝薬王圓能書 子宝自在ニ造ル伝* 育児の種* 小児扱方緊章* 子守教育法* 眞法・子宝種蒔鏡* 産前産后心得のあらまし* 子育草養生論* 人工養育法* 育児教誨聴書* 小児健育示要* 子育必携・産育造化機論* 育児法改良説*	
15 (1883)	渡辺嘉重 今井真斎 山内養順 岡田良策 斎木林策・沢祐喜 巖淵吟龍述・清水文龍記 岩田文吉 編 浅利保正 編 胡蝶園主人 編 19 (1886)		

発行年	著者名	書名 (記載項目)	出版社
20 (1887)	田村美枝 編輯 石田勝信・勝秀 小橋延吉 浅田宗伯 編 林 吾一 編 榎本 常・平松三木枝 編 小池民次・高橋秀太 編 黒瀬要平 一、学人 編 小森順貞 佐藤洋治 小倉規矩 高瀬真卿述・竹内撲卿記 坂部広貫 広田 長 編纂 三島通良 土居辨次郎 アンモン (渡忠純訳)	監頭・大日本国民専用実地有益大全 (上巻) (児童育学之部) 小児養育金礎 脾肝葉王圓能書 小児宮養概論 小児壽草* 幼稚保育篇* 幼穉保育の手引* 家庭教育* 子そだて鑑* 慈母必読・哺乳兒養育問答* 胎育方法* 産前産後* 妊婦心得草* 実験家庭の教* 通俗家庭教育論* 児科必携 ははのつとめ (親の巻・子の巻) 子供の育方* 衛生教育・婦嬰鑒 (上編)* 日用百科要法 (小児養育法) 育て草* 家庭叢話・父兄の心得草* 家庭教育幼稚園 (通俗教育全書第一編)* 家庭教育高等小学校 (通俗教育全書第三編)*	大阪書林有益館 葉王圓本舖 島田書房 柴田元春刊 金港堂 岡山・細謹舎 金港堂 岡山・同窓教育談会 鳥羽上村・晩翠堂医院 京都・布部常七 佐藤洋治刊 愛知県知多群産婆講習所 金港堂 育幼房 金原商店 丸善 他 金港堂 幸福堂 東雲堂 寺井宗平刊 蓮の会 博文館 博文館 博文館
21 (1888)			
22 (1889)			
23 (1890)	蓮沼甚三郎 谷口流鶯 谷口流鶯		

24 (1891)

坪谷善四郎
足立 寛
篠田正作

閨秀錦囊・日本女礼式 一名婦人一代重宝鑑(出産・教育のこと)
育児談
女子立志美談 [児を育つる心得]
児育草*

博文館

日本赤十字社

図書出版会社

女学雑誌社

鴻盟社

金港堂

関西教育社

目黒書店

金桜堂

問室親遠刊

大阪・島崎槌彦

浜松・松塚登喜子

博文館

広島・村上純祥

大阪・図書出版

博文館

金港堂

金港堂

博文館

博文館

博文館

積善館

東雲堂

大阪・太田善三

25 (1892)

能仁義道
新保磐次
吉見経綸 訳述
保田安政 編纂
岡本可亭 編

芽ぐみの露 一名・父母の十思*
家庭教育原理・源語時代教育
普通教育講義録第参号・育児論*
家庭教育・商人百夜草(上・下)
女宝 [育児法]
育児論*

産育摘要(ふじんのこころえ)*

胎教論*

胎内教育*

妊婦養生談*

家庭教育小学生徒*

児童心理学(普通教育全書第八編)*

稚児啓育論*

家庭教育之原理*

ははのつとめ・子の巻(増補訂正第六版)

小児養育法(寸珍百種第廿七編)

家政学(上・下) [母親の衛生及び小児養育法]

貴女至宝・日本婦女鑑 [育児]

小児養育法・健康無病*

養児粉頌効録*

26 (1893)

(不刊年)
(不明年)

カンペンター(吉見経綸訳)
マレソン(新保磐次訳)

三島通良

中村正道

下田歌子

鈴木春湖

坂 俊蔵 編

太田善三

発行年	著者名	書名〔記載項目〕	出版社
	宇田総兵衛	神国幼童おしえ艸*	宇田総兵衛刊
	ハウ(坂田幸三郎訳)	保育学初歩*	福音社
	栗原政蔵	保育叢譚*	保育協会
27 (1894)	三輪田真佐子	女子の身分〔母道〕	国光社
	進藤玄敬 述	育児必携・乳の友(寸珍百種第四拾七編)	博文館
	伊東洋次郎	増補・通俗経済・絵入・日用家事要法〔小児教育〕	三輪玉潤堂
	津川安吉	通俗育児小話*	大阪・津川安吉
	慈愛堂主人	通俗絵入・男女育児法*	金桜堂
	三田村多伸	育児手ひき艸*	札幌・三田村多伸
	コルテス	はゝのつとめ*	大阪・福音社
	山田禎三郎	家庭教育 附録・小児養生説*	普及舎
28 (1895)	大橋又太郎 編	玩具と遊戲(家庭叢書第三卷)*	民友社
	大月 隆 編纂	家政案内(日用百科全書第四編)〔保育〕	博文館
	ブライヤー(寺内頼重訳)	吾家之憲法〔赤子の養育法〕	開新堂書店
	国分操子 編纂	幼児心意発達之理*	内田老鶴圃
29 (1896)	寒沢振作	日用宝典・貴女の菜 上〔育児法の部〕	大倉書店
	大橋又太郎 編	子供のしつけ	博文館
	中井龍之助	育児と衛生(日用百科全書第十編)	博文館
	福岡勇蔵	育児必携*	成功堂
	坪谷善四郎	家庭教育之菜*	秋田・福岡勇蔵
30 (1897)	嚶々亭主人	日本女礼式大全〔出産のこと・教育のこと〕	博文館
	教育散士	家庭教育・教育美談	求光閣
		家庭教育・をしゑ草	榊原友吉

31 (1898)	津田房之助 林 恕哉 久津見息忠 的場銈之助 編輯 後閑菊野・佐方鎮子 石坂四郎平 綿引 勇 編 下田歌子 大月 隆 渡辺光次 新治吉太郎 編 岡野竹園 広瀬弘見 信濃教育会 編 熱田真吉 石田勝秀 読売新聞社 編 あきしく 松井潜夫 松雲堂編輯所 編 木村鍼太郎 吉田賢子 女子之友記者 編 利根川與作	家庭憲法〔育児の心得〕 婦人実務録〔育児の部〕 児童研究* 育児の葉(家庭全書第貳篇) 家事教科書(下巻)〔育児法〕 養育茶話* 産前産後の心得 附・嬰兒取扱法* 母親の心得(家庭文庫第六編) 家の宝〔小児の養育方〕 小児養育法* 通俗家庭教育* 教育児談・第二篇・学びの葉 妊産婦の心得・安産育児之法* 子守教育法* 家庭に於ける感情教育* 大人摂生 小児養育心得 脾肝薬王圓能書 家庭の教育 家庭の葉・第三編〔育児〕 家事経済・婦女の葉〔子女教育のこと・懐妊及び出産のこと〕 子の育て方* 普通育児法* 安産の心得・妊婦必読* 小児の行為 家庭教育法	文錦堂・松声堂 文学同志会 三育社 同文館 他 成美堂・目黒書房 群馬・清風明月楼 群馬・綿引勇 博文館 文学同志会 他 誠之堂 富山房 鍾美堂 誠之堂 金港堂 秀英舎・三松堂 薬玉圓本舗 伊藤文友館 駿々堂 求光閣書店 大阪・石塚書店 金港堂 保成堂 東洋社 普及舎
32 (1899)			
33 (1900)			
34 (1901)			

発行年	著者名	書名〔記載項目〕	出版社
35 (1902)	下田歌子	家庭教育・泰西所見(家庭文庫第十二編)*	博文館
	松本孝次郎	実際の児童学	同文館
	三島通良	日本健体小児ノ發育論	大日本図書
	下田歌子	嬰兒教養	大倉書店・服部書店
	坪谷善四郎	増訂・日本女礼式〔出産のこと・教育のこと〕	博文館
36 (1903)	後閑菊野・佐方鎮子	家事提要〔育幼〕	明治図書株式会社
	ルソー(舊学応抄訳)	父母と子供*	文光堂
	横山 順	家庭教育の枝折*	大阪・明昇堂
	星常子・中島与志子	家事教程〔育児〕	六盟館
	下山作太郎 編纂	家庭衛生・社会効益〔家庭の教育〕	成業社
	長浜宗信	小児養育之心得*	大阪・長浜宗信
	真下正太郎	小児養育草*	大阪・真下医院
		育児と衛生*	民友社
	後藤新蔵	家庭衛生・小児養育法*	広文堂
	東京衛生協会	編育児衛生顧問 一名・母親の心得*	文昌堂・文永堂
37 (1904)		母(第一編)*	日本母の会同盟会
	高島平三郎	天真爛漫 一名・こども(婦人叢書第一編)*	婦女新聞社
	松本孝次郎 講述	家庭教育講話*	静岡市教育会
	スミス(菅沼元之助訳)	家庭教育(家庭教育叢書第一編)	金昌堂
	津田元徳	家庭教育*	警醒社
	ハウ嬢	幼児心理学*	金港堂
		保育法講義録*	岡山・私立岡山県教育会
		婦人宝典〔家庭教育・小児衛生・児童心理〕	郁文社・積文社

小林鶯里 編

日用百科寶典
〔生理衛生・教育〕

尚米堂

40 (1907)

瀬川昌著述・天野馨 編	実験上の育児（上・下巻）	新橋堂
ジャクソン（矢野道雄訳）	育児訓＊	晴光館
中川愛氷	家庭と教育＊	大阪・藤谷崇文館
松本孝次郎	家庭に於ける児童教育＊	国光社
羽田貞義・小沢錦十郎	母のための教育学＊	目黒書店
斉藤鹿三郎 編	女子補習・子女教育法 一名・母の友＊	同文館
テーロル（五十嵐力訳補）	児童の研究＊	金尾文淵堂
中村五六	保育法＊	国民教育社
宮沢六郎	保育の園＊	鎌倉・小児保育園
中村千代松 編	実験問答・日本家庭節用（小児科）	博文館
西谷龍頭	婦人の重宝〔育児の注意〕	実業之日本社
秋琴女史講述	新女医者〔育児の一斑〕	晴光館
黒沢源七 編	育児鑑 親と教育者の為	昭文堂
大日本家政学会 編纂	家政要鑑（上・下）〔育児〕	大日本家政学会
大日本淑女学会 編輯	家庭要鑑〔育児の巻〕	東京国民書院
三輪田真佐子	新家庭訓〔母の責任・家庭教育の標準 他〕	博文館
田村貞策・朝夷孤舟 編述	衛生指針・妊娠婦の務	博文館
細川潤次郎	婦女の心得〔育児に関する事〕	明治書院
向山軍次郎・望月鉄太郎 監輯	戦後必携・人生之宝典〔育児法〕	敬文館
玉人哉	婦人衛生・結婚と育児＊	明治堂
チャウアッス（西谷龍頭訳）	最新育児法＊	実業之日本社
足立 寛	通俗育児新話＊	南江堂
国友文次郎 編	教育衛生・育児の栞＊	修文社

41
(1908)

笹野豊美
三土忠造
緒方正滑
小林 春
デーヴィス
ハリソン (松本春枝訳)
田村貞策・朝夷孤舟 編述
東京衛生協会 編纂
小原頼之
前田長太
大日本女学会 編纂
加藤照磨述・羽仁もと子 編
岩淵豊治
加藤照磨
川瀬元九郎
進藤克代子
田村化三郎
スミス (皆川正禧訳)
服部乙次郎
羽仁もと子
中村五六・和田 実
竹内松治
帝国実業協会 編
家政学研究会 編纂

子供の躰方 一名・育児憲法*
親の罪 一名・家庭教育批評
妊産婦之心得*
誤解矯正・安産手引*
理想の母*
児童研究 一名・児童教育の枝折*
育児の務 (クーリッジ著)
育児衛生・母親の心得
育児日記・親心
女徳の養成 (母親の責務)
実用百科大全 (教育・生理衛生・育児)
育児法*
育児学*
通俗育児衛生と小児病手当*
児童教育・家庭衛生*
産婦の心得*
子の有る法無い法*
母の道 一名・小児の教育*
小学児童・親の務*
家庭教育の実験*
幼児教育法*
日本婦人宝典 (斎家育児上の注意)
帝国実用宝典 (教育・医学)
重宝経済・日用百科全書 (妊娠及育児)

42
(1909)

服部書店
金港堂書籍株式会社
博文館
方針堂
内外出版協会
宝文館
家庭之友社
フレールベル会
印行社
大日本実業協会
博愛館

子供の躰方 一名・育児憲法*
親の罪 一名・家庭教育批評
妊産婦之心得*
誤解矯正・安産手引*
理想の母*
児童研究 一名・児童教育の枝折*
育児の務 (クーリッジ著)
育児衛生・母親の心得
育児日記・親心
女徳の養成 (母親の責務)
実用百科大全 (教育・生理衛生・育児)
育児法*
育児学*
通俗育児衛生と小児病手当*
児童教育・家庭衛生*
産婦の心得*
子の有る法無い法*
母の道 一名・小児の教育*
小学児童・親の務*
家庭教育の実験*
幼児教育法*
日本婦人宝典 (斎家育児上の注意)
帝国実用宝典 (教育・医学)
重宝経済・日用百科全書 (妊娠及育児)

43 (1910)

藤牧左門	家の鑑(上下) [小児の衛生・教育]	帝国廃兵慰藉会
小原・物集 他	実用家庭百科全書 [教育・育児・衛生]	精美堂
高橋忠次郎・松浦政泰	家庭遊技法 (家庭百科全書第二十編)	博文館
内田安蔵	家庭の榮・婦人文庫 [育児の巻・教育の巻]	大日本家政学会
原 胤昭	母と子 (何うしたら子供はよう躰られるか)	博文館
小松貞介	小児養育法 (健康児の巻・虚弱児の巻)	日高有倫堂
千日亮・安井洋	晩近育児法	吐鳳堂
帝国保育会 編	育児活法 一名・母親の丹誠*	右文館
南川淳一	安産の心得*	大阪・興信社
柳瀬実太郎	小児救急・母の手引*	大阪・柳瀬実太郎
浅田繁太郎	通俗子供の病氣と其手当*	宝文館
辻 高俊	母のため*	服部書店・文泉堂
巖谷小波 編	子宝*	三越呉服店
安田秀蘭	家庭教育の実際*	婦女新聞社
波多市松子	どもの研究*	実業之日本社
下田歌子	婦人常識の養成 (母としての婦人 附母親の心得)	実業之日本社
中村秋人	児童教育・鞭と涙	実業之日本社
辻 高俊	妊産婦の心得	修文館
芦川忠雄	愛子教育・父の書簡	至誠堂書店
女子裁縫高等学院 編纂	家庭節用 (産前産後・育児法)	女子裁縫高等学院出版部
真下正太郎	育児の燈火*	民友社
牧野源三郎・関東八	妊婦の福音・子の育てかた*	井上一書堂
池田秀雄 編	乳児の養育*	大阪・井上秀雄

44
(1911)

西台米太郎
大倉書店編輯部 編
石田勝太郎
桑政治郎
三宅鉦一
パトリック (日田権一訳)
高島平三郎
中村秋人
山松鶴吉
堀田相爾
鈴木・日高・和田
大久保直穂
吾妻勝剛
国分操子

家庭教育・子供のしつけ方*
我子の生立*
家庭教育・子供と父母*
性癖矯正・家庭訓育百話 附録・育成要訓十則他*
通俗・病的児童心理講話*
児童研究の原理*
教育に応用したる児童研究
幼児保育・情と睦
小学校に連絡せる・家庭の教育
家庭教育の仕方
通俗・大国民文庫 [育児法]
新撰育児法講義*
お産の心得*

明治の家庭社
大倉書店
広文堂
金港堂
敬文館
目黒書店
洛陽堂
実業之日本社
敬文館
実業之日本社
大国民義会
朝陽堂
大倉書店
大倉書店
実業之日本社
市町村雑誌社
目黒書店
九碗書院
尚文堂
至誠館
洛陽堂
同文館
洛陽堂

45
(1912)

長峰安三郎 他
甫守ふみ
長井岩雄
鈴木作楽
鬼平武磨 編
高島平三郎
田中義能
ケーラス (石川弘訳)

家庭日用・婦女宝鑑 (上巻) [育児法]
賢母の鑑 (婦人世界・増刊 第七卷第五号)
国民叢書 (前・後編) [教育]
新編・家事教科書 [育児]
育児のしおり (前編)*
随意男女の生るゝ理法*
こどもの病気を早く知る法と手当*
家庭及び家庭教育
家庭教育学*
家庭に於ける児童教育の理論及び実際*

発行年	著者名	書名〔記載項目〕	出版社
大正	1	小出新次郎 中外書院編輯所 編纂	女子裁縫高等学院出版部 中外書院
2 (1913)	大村仁太郎 瀬川昌著	我が子の美德 最新育児のをしへ	同文館 至誠堂
3 (1914)	西山哲治 編 長尾美知 高橋 毅・伊藤常子 下田歌子 講述 美島近一郎 高島平三郎 大日本女学会 編纂	赤ん坊展覧会 最新育児法講話 育児三年・一名 子供を健全に育つる法 礼法家事・婦人修養十講〔育児及び家庭教育に就いて〕 新選・実用家政学精義〔育児〕 教育講座・児童之精神及身体 婦人宝典〔増補修訂版〕〔小児衛生〕 児科必携〔増訂13版〕 小児看護の栞 家庭宝鑑〔育児・教育〕 家庭医学大事彙〔小児科〕 新定・家事教科書〔育児・家庭教育〕 趣味と常識・現代婦人宝典〔家庭教育編〕 安産のしるべ 育児法 病児及虚弱児の養育法 児童の精神生活と教育 近世児科学〔増訂第四版〕〔前後編〕	家庭之友社 東亜堂 弘学館 東京国民書院 啓成社 日本学術普及会 吉川弘文館 金原商店 金原商店 忠誠堂 精華書院 東京開成館 大日本雄弁会 日進堂 金港堂 新橋堂書店 目黒書店 明文館書店
4 (1915)	広田 長 宇野両軒 菊池・高橋・伊藤 共編 吉村千鶴 小林良一 岩崎直子 井上秀子 瀬川昌著 白井規一 長尾美知		
5 (1916)			

6 (1917)

岸辺福雄

加藤照磨

鳩山春子・薫子

ストーナー夫人

葛原 幽

安部磯雄

稲毛詠風

堀康郎・中嶋三朗 編輯

寺田精一

大日本文明協会 編

土肥衛・高垣琴子

大江スミ子

服部北溟

7 (1918)

高島平三郎

長浜宗佑

太田孝之

吉岡弥生

吉岡弥生

佐藤得斎

西山哲治

加藤照磨 他

8 (1919)

鳩山春子

9 (1920)

加藤末吉

婦女界(十三卷四号) 家庭教育号

親のため子のため

嫁入文庫・育児の巻

嫁入文庫・家政の巻〔児童の教養〕

どうして小児を育てるか

育児物語・一姫二姫三太郎

子供本位の家庭

父と子

家庭経済全書〔育児法〕

児童の悲劇

児童生活とその教養(ヒッピーウス著)

母子健全・妊娠より育つまで

応用・家事教科書(下巻)〔育児〕

我子の早教育

婦人之為に〔婦人と教育〕

小児養育の心得(増訂九版)

乳児の育て方

結婚より育児まで

お産と育児

生殖より育児まで

赤ん坊の研究

婦人世界(十三卷四号)・春季増刊・健全育児号

我が子の教育

我が子の躾方叢書・愛児のしつけ方

婦女界社

実業之日本社

実業之日本社

実業之日本社

東京アルス

南北社

実業之日本社

大同館書店

帝国教育学会

心理学研究会出版部

大日本文明協会

文瑛書院

宝文館

南北社

至誠堂書店

報文社

日進堂

駿台書房

泰山房

日本書院

南北社出版部

実業之日本社

婦女界社

実業之日本社

発行年	著者名	書名〔記載項目〕	出版社
10 (1921)	服部北溟	子供のおもちゃ教育	博文館
	加藤美繪	生活改善処世経済・家庭百科全書〔育児上の実際注意〕	大日本家庭教育会
	原田 隆	新産婆学	博文館
	家政協会編纂部	家庭宝鑑〔妊娠及育児〕	家政協会
	高島平三郎	家庭心理講話	洛陽堂
	中山三郎・関莊一郎	我が家の顧問〔妊娠から育児まで〕	共同出版社
	大江スミ子	応用・家事教科書〔下巻〕〔育児〕	東京宝文館
	加藤末吉	我が子の躰方叢書・子供を順良にする工夫・お守りの仕方	実業之日本社
		家庭朝日・経済と教育の巻〔東京朝日新聞5月5日付録〕	東京朝日新聞社
		児童の衛生	同文館
11 (1922)	内務省 編纂	児科治療学	克誠堂書店
	笠原道夫	改訂増補・早教育と天才	大鑑閣
	木村久一	母の友 愛児の為に〔一月特別号〕	婦女界社
	日本国民協会編纂局	国民之顧問〔妊娠と育児〕	日本国民協会出版部
	石沢吉磨	訂正・家事教科書〔下巻〕〔育児〕	集成堂
	糸 左近	再訂増補・家庭医学〔産科学・小児科学〕	金刺芳流堂
	川久保得三	家庭を中心とせる生活改造〔育児は〕	斯文書院
	鋤柄直也・左近允尚彦	通俗・家庭医学大典〔小児科〕	公益通信社
	矢野 雄	育児法の理想	日曜世界社
	高木斐川	婦人の常識〔育児法〕	東京文学普及会
11 (1922)	新知識研究会 編	日用百科・知識の華〔教育・妊娠及育児〕	玉井清文堂
	ツェルニイ(真島隆輔訳補)	医学上より観たる・児童教育	厚生閣
	高島平三郎	胎児嬰兒の教養〔児童研究講習録・第一編〕	児童保護研究会

12 (1923)

石川志津子

坂内益蔵・天野誠斎 編

三田谷 啓

内務省衛生局 編

市川源三・下田次郎

河島右一・天野誠斎 篇

長尾美知

西村伊作

枝元長夫

実用学会編輯所

望月寛一

大阪毎日新聞社 編纂

杉田直樹・竹内薫兵

杉田直樹

東京市社会教育課

報知新聞社家庭部

甲斐久子

坂内みつ

内務省衛生局 編纂

内務省衛生局 編纂

マリ・ストープス

週刊朝日 編輯

下田次郎

堀見宝泉

妊娠と育児

初生児より小学時代まで・体質による子供の育て方

育児の心得

育児と衛生

家庭教育

年齢分け・育児法

若き母親の為に・乳児の哺育と其看護

我子の教育

科学を基礎とした・文化生活 [神経質の児童が殖える 他]

日用国民宝典 [妊娠及育児]

安産と難産(母之友叢書第一編)

婦人宝鑑(妊娠と分娩と幼児哺育)

児童の性と栄養(児童研究第十編)

天才児と教育

愛児の躾けと育て

実験子供の躾け方

生活改善・系統的家政講話 [妊娠と育児]

子供の遊ばせ方

家庭衛生の心得 [お産の前後・夏と子供・冬と子供]

家庭衛生の心得 第一集(小冊子台本)

母性愛

家庭こども相談

増訂・母と子

育児上の注意

石渡正文堂

日本学術普及会

同文館

方文閣

児童保護研究会

新橋堂

大阪屋号書店

文化生活研究会

大阪毎日新聞社

大日本実用学会

婦女界社

大阪毎日新聞社

児童保護研究会

白揚社

実業之日本社

大明堂書店

平凡社

教文書院

大日本私立衛生会

大日本私立衛生会

成光館出版部

朝日新聞社

実業之日本社

登美屋書店

14 (1925)

岡田道一

高島平三郎

ハバロック・エリス

竹野芳次郎

太田孝之

加藤末吉

杉田直樹

田中芳子

小原国芳

聚文館編輯部

平野小潜 編

国府慎一郎

田中久・油川つか子 編

竹内薫兵

三野 裕

金井泰三・柳井銑太郎

小松崎三枝

糸 左近

婦人教育会 編纂

三田谷 啓

実用学会編輯所 編纂

井上秀子

児童の生理衛生

児童心理講話

女子春秋〔嬰兒と母性愛〕

子供を丈夫にする新育児法

育児の実際〔母之友叢書第十編〕

愛児の躰と親のたしなみ〔我が子の躰方叢書第八編〕

神經質児童の躰け方

親ごころ子ごころ

母のための教育学

新国民の常識〔家庭の教育・妊娠の摂生法及び育児法〕

文化生活の知識〔主婦の常識〕

八千代宝鑑〔妊娠より育児まで〕

学校家庭・太郎の実際教育

現代・家庭の教科書〔衛生と育児〕

子供の病氣 実例と手当

育児の菜

育児の衛生手引

家事界之智囊〔育児〕

女ばかりの衛生

婦人の新知識・何から何まで〔子供を丈夫に育てる法〕

子供を強くする為めに

大日本百科全書〔妊婦の衛生及育児大要〕

現代・家事教科書〔下巻〕〔育児〕

児童保護研究会

広文堂

朝香屋書店

主婦之友社

婦女界社

実業之日本社

白楊社

同文館

イデア書院

聚文館

勇栄社出版部

八千代生命保険株式会社

中文館

帝国教育研究会

アルス

ネススル・アングロ、スキス煉乳会社

実業之日本社

中興館書店

内外出版協会

一誠社

実業之日本社

大日本実用学会

文光社・目黒書店

15 (1926)

黒瀬艶子
下沢瑞世
能勢 哲

玉文社編集部
平田華蔵

日本放送協会関東支部
竹内 逸

中目伊勢雄
佐藤隆徳

井上秀子

乳児相談所

下間芳克年

乾卯食料品株式会社育児相談部編纂

右田清子

母性読本・3・我が子の心理
新胎教
子供の叱り方

常識百科精講 (妊娠と育児)

家庭教育・愛児のメンタルテスト (一名・我が子の智慧の測り方)

主婦之友・五月号 (お産と育児号)

一般知識講座 (ラジオ講演集第11) (お七夜前後の心得吉岡弥生)

児童の愛育

愛児が病気になるのなら

自一歳至十三歳・愛児の身体検査と精神検査 (母の講座叢書Ⅱ)

最新家事提要 (育児)

育児講座 第壹号

齡に適應せる・遊戯教育

育児経験話

家庭文化宝典 (育児の知識)

昭和
2 (1927)

婦人倶楽部編輯局

紀室公民

近藤耕蔵

山田わか

岡田怡川

右田清子

富山房百科事典編集部

処女と妻の新読本 (愛児の養育)

家庭常識・実用百科全書 (保育について・子女の教育 他)

新編・家事教科書 (育児)

昭和婦人読本 (幼児教育に対する注意の二三 他)

主婦之友・六月号 (妊娠とお産号)

我が子に何を為さしむべき乎

昭和家庭宝鑑 (育児の常識)

日本家庭百科字彙 (育児 他)

文化生活研究会

主婦之友社

文友社

玉文社

章華社

主婦之友社

博文館

明治図書

愛児の友社

南光社

文光社

乳児相談所

目黒書店

乾卯食料品株式会社育児相談部

玉文社

大日本雄弁会

河野書店

光風館書店

文教書院

主婦之友社

章華社

玉文社

富山房

発行年	著者名	書名〔記載項目〕	出版社
3 (1928)	野矢時子 久保良英 西山哲治 矢野 雄 東京朝日新聞社社会部 森川正雄 山崎祐久 内務省社会局保険部 紀尾井龍 落合二郎 編 通俗家庭講話研究会 編 信濃教育会編 佐久間兼信 近藤菊二郎 日本両親再教育協会 編 羽仁もと子 3 () 3・4 4 (1929)	現代女性の為に〔家庭教育・妊娠と育児〕 愛児良毅の教養 子供の為に(大日本百科全集) 家庭科学大系67・育児学 我子のしつけ方 幼年の巻 幼稚園託児所・育児法 医学上より見たる・子供の躾け方 お産の心得 母のための芸術学 常識百科集成〔妊娠及び育児〕 妊娠自由自在・子の出来る法と育て方 家事教科書 第三篇〔育児〕 妊娠と育児 心理教育・我子の躾 子供研究講座 全十巻 羽仁もと子著作集第十・十一巻 家庭教育編 処世常識宝典〔哺乳から学齢まで〕 最新・妊娠より育児までと胎教 赤ちゃんから両親へ 通俗医学講座・第二巻〔児童養育・お産 他〕 改訂増補・育児法 小学生全集・メンタルテスト集 健康増進叢書・育児編	聚文館 中文館 誠文堂 同刊行会 朝日新聞社 東洋圖書 同文館 内務省社会局保険部 イデア書院 修教社書院 國民書院 信濃毎日新聞 誠文堂 敬文館 先進社 婦人之友社 講談社 開文社 春陽堂 朝日新聞社 婦人之友社 文芸春秋社 大阪毎日・東京日日新聞社
	木下正中・瀬川昌世		

室井きさ子

母性愛日記

万里閣書房

婦女界社編輯部 編

主婦之友・秋季特別号（安産と育児号）
民間療法と家庭薬物の知識（子供の手当・冬と子供）
結婚読本（育児篇）

主婦之友社

高田義一郎

結婚読本（育児篇）

春陽堂

東京中央放送局

家庭講座テキスト・我子の為に（花の巻・青葉の巻）
子供を病気にさせないために（家庭医学講座第一輯）

日本放送協会

婦人之友編輯局

子供を病気にさせないために（家庭医学講座第一輯）

婦人之友社

岡田道一

児童保健衛生

志玄社

高島平三郎

嫁と姑及び児童心理と教育（家庭科学大系）

家庭科学大系刊行会

大日本家庭医学研究会 編纂

家庭医典（育児の知識）

忠誠堂

朝日新聞社 編

全日本より選ばれたる・健康児三百名

朝日新聞社

柘植あい

安産と育児のしをり

博文館

十大医学博士 編纂

朝日育児ノート

大阪朝日新聞社

B. C. GRUENBERG

母様！僕どうして生まれたの？
愛児のために何を為すか

クララ社

星野鉄男

素敵に新しい・幼児の遊ばせ方と学ばせ方

衛生文化思想普及会

稲村玉雄・水木 梢

子のための展覧会

高踏社

三田谷治療教育院 編

日本の子供（子供研究叢書）

三田谷治療教育院

武政太郎

両親のための一般心理学

日本両親再教育協会

松本亦太郎

現代婦人読本（婦人と子供の教育）

天人会

神近市子

現代婦人読本（婦人と子供の教育）

誠文堂

松元竹二 編輯

家庭医学全集・小兒科育児篇（上下巻）

大日本小児保健協会

小笠原秋水 編輯

妊娠中の心得と赤ちゃんのあんよまで

富山房

倉橋惣三・松平友子 他

新編家事（下巻）（育児）

明治図書

京都市教育会 編纂

家庭教育・母のために（幼児の巻）

明治図書

田村 均

育児読本

婦人之友社

6
(1931)

5
(1930)

7
(1932)

育児科学研究会	赤ん坊・正しき理解と正しき育て方(別冊付録・生ひ立ちの記)	育児科学社
松本亦太郎	父母の態度	日本両親再教育協会
平原不二也	愛児を語る	佐賀県学校衛生会
丸山良二	幼児の心理	三友社書店
今堀友市	家庭教育の体験を語る	目黒書店
三田谷 啓	我子の愛育法	婦女界社
野瀬寛頭	幼児より成年まで・家庭教育の実際	先進社
野瀬寛頭	愛児を優等生にするには	先進社
コロンタイ	母性と社会	ロゴス書院
麻生正蔵	時代と民情に即したる・家庭教育	北文館
高村守太郎	出産から入学までの・育児法(主婦之友 附録)	主婦之友社
	育児百科宝典・出産から誕生までの月々の心得(主婦之友 附録)	主婦之友社
	胎教	大道学館出版部
	小児病百五十種の手当法(主婦之友 附録)	主婦之友社
福島政雄	家庭教育と女性(混沌社教育叢書第四篇)	混沌社
小沢恒一	母のための教育心理講話	人文書房
土肥 衛	妊娠と育児のしるべ	文友堂
石川七五三二	児童の心理と家庭教育講話	名古屋教育研究会
桑野久任	育児講話	目黒書店
佐藤亀太郎	最新・児童心理と家庭教育	南光社
伊東・矢野・上村	子供の体質と栄養	日本両親再教育協会
高亀良樹・青木 茂	愛児を持てる親達へ	篠山書房
高崎能樹	母のため・子供の心理	新生堂

8 (1933)

伊藤 裕
羽仁もと子
倉橋・西本・久保 他
遠藤 武
新井兵吾 編輯

新編・家庭教育講話
羽仁もと子著作集第十六巻・みどりごの心
両親再教育
親心
優れた子美しい子を儲ける法・良い子立派な子に育てる法

(婦人倶楽部九月号附録)

紺戸廉平
小田美穂
ニイル
海老衣子
F・ダニエルソン
霜田静志
野瀬寛顕
八代 登 編
片桐龍子
信濃教育会 編纂
福井正恵・太田孝之
三省堂編輯所
ウッドロー (大友龍子訳)
竹野芳次郎
三田谷 啓
島田牛稚
高橋能樹

新育児法綱要
最新育児読本 (附 民間療法と応急手当)
問題の親
ベビーブック
母親教育シリーズ・1・子供の癖をどうする
子供への理解
優等生にする 愛児の小学教育
赤ちゃん全集 (主婦之友七月号附録)
家庭大学・姫かがみ (妊娠・出産・子女の教育)
補習家事教科書・育児篇
婦人之友・六月号 (特輯・をさなごに向ひて新しき眼をひらけ)
今日のお産と育児 (婦女界十月号附録)
愛児の記録
英才児と鈍才児・その心理と教育
子供を丈夫にする新育児法 (初版大正14)
最新育児の心得
我が子をまもる
親心のゆくへ

教育書籍刊行会
婦人之友社
日本放送出版協会
校外互具教護研究社
大日本雄弁会講談社
文光社・目黒書店
栄養と育児の会
刀江書院
実業之日本社
新生堂
刀江書院
有文書院
主婦之友社
忠誠婦徳会
信濃毎日新聞
婦人之友社
婦女界社
三省堂
培風館
主婦之友社
同文館
大阪府教護聯盟
宗教教育図書刊行会

発行年

著者名

書名 (記載項目)

出版社

井沢恒美

村上 寛

安藤画一

津田博道

青木誠四郎

志垣 寛

三田谷 啓

倉橋・斎藤・青木

中江順市

岡田道一

佐久間兼信

小高豊作 編輯

大友 茂

我子の早教育

成功の裏面に働く・母ごころ

産婆学問答 (第16版)

育児と栄養の知識

家庭便覧 (嬰兒の発育 他)

子供の問題に答える

家庭教育の知識 (萬有知識文庫)

子供の心の導き方

母の種本・子供を良くする急所 (婦人倶楽部附録)

愛育読本

教師と母の為の心理学

学童を持つ母親に贈る

安産読本

子供の問題全集 (全8巻)

1・両親とは何か

3・青春期の問題

5・子供と学校の問題

7・子供の問題実話集

我が子の育て方全書 (全10巻)

1・我が子の躾

3・我が子の気質と性格

5・我が子の誘惑

7・我が子の人物教育

2・子供の発達と性格

4・特殊な子供の研究

6・子供の問題とその取扱

8・子供に関する思想

2・我が子の長所と短所

4・我が子の身体

6・我が子の不成績

8・我が子の学校選択と職業指導

啓成社

文友堂

鳳鳴堂書店

非凡閣

時事新報社

成美堂

非凡閣

刀江書院

講談社

愛育会・三省堂

文教書院

協和書院

婦人之友社

刀江書院

平凡社

11 (1936)

沖野岩三郎
 波多野完治
 山岸辰蔵他 編輯
 波多野・堀・細谷 編
 篠原・山下・土屋 共編
 前波仲子
 八波則吉
 市川源三
 徳山敬子
 竹内薫兵
 日本放送協会 編
 日本放送協会 編
 デイ・エー・ソム
 実用学会編輯所 編纂
 倉橋惣三
 三田谷啓
 尾高豊作 編
 尾高豊作 編
 霜田静志
 上尾清彦
 高島平三郎
 高島平三郎
 前川康太郎

9・我が子の性教育

育児日記から

子供とはどんなものか

大日本百科全書〔妊婦の衛生及育児大要・保育・子女の教育〕

子供の生活心理〔子供の社会心理学叢書1〕

新修・百科辞典〔育児の心得〕

女性宝鑑〔新しい育児〕

趣味本位・愛児の教育

女性文化講話〔母性講話〕

家庭管理〔育児〕

夏の小児病医典〔婦人倶楽部附録〕

家庭衛生メモ〔育児上の注意〕

家庭メモ〔衛生に関することども〕

子供の日常問題〔1・2〕

帝国百科全書〔妊娠及育児〕

育ての心

子供の智識の導き方

子供の愛育読本

子供の指導読本

母の書

父よ母よ・我が子を如何に愛すべきか

家庭に於ける・子女の教育

家庭・婦人・児童

ころばぬ先

10・我が子の乳幼児より青年期まで

子供の教養社

刀江書院

福神会

刀江書院

一心社

愛之事業社

同文社

明治図書

成美堂書店

大日本雄弁会講談社

日本放送出版協会

日本放送出版協会

叢文閣

大日本実用学会

刀江書院

刀江書院

刀江書院

刀江書院

刀江書院

児童衛生研究所

平野書房

平野書房

愛護会本部

12 (1937)

松本亦太郎	家庭生活と環境現象 (子供の研究と教育叢書・6)	刀江書院
大伴 茂	親心・子心	平凡社
松山照夫 編	こども愛育展覧会・記念帖	恩賜財団愛育会
小鷹利三郎	婦人と経済的医学常識 (育児篇)	帝国保健思想普及会
波多野勤子	子供の発達心理 ― 心理学者の育児ノート ―	刀江書院
森 三郎	子を導く・父と母に答へる	文友堂
江原小弥太	父は何をなすべきか	千倉書房
下中弥三郎 編	家庭百科全書 (育児)	平凡社
一橋善之助	無工作の教育 (子供の研究と教育叢書4)	刀江書院
田中令三	新しき母のために	叢文閣
大妻コタカ	最新実用・家事全書 (育児の部)	研文書院
石橋徳作	愛児を亡った人の慰め	一銭地藏堂宇建立事務所
日本愛育研究所	子供愛育宝典	国民図書協会
上村哲弥	親たるの道	第一出版社
上村哲弥	愛児の養方読本	日本両親再教育協会
関 寛之	我が子の教育	婦女界社
愛之事業社編輯部	妊娠と安産と育児法 (主婦之友付録)	主婦之友社
伊福部敬子	婦人家庭百科辞典 (育児 他)	三省堂
倉橋・岡部・野上・青木	最新百科大辞典 (家庭教育)	愛之事業社
沢田 謙 監修	若き父・若き母に語る	教材社
加茂学而	子供心理学講話	日本両親再教育協会
	新生活の書 (育児教育篇)	東亜書房
	家庭教育道	同志同行社

13 (1938)

村田 勤・鈴木龍司 編

上村哲弥

上村哲弥

高崎能樹

加藤雄策 編

下田次郎

畔上 博 編

富士川 游

14 (1939)

田中寛一 編

婦人之友編集部

伊福部敬子

伊福部敬子

友松円諦

児玉九十

大友 茂

国防婦人会台北地方本部

佐藤栄祐

東京市役所 編輯

三田谷 啓

15 (1940)

大友 茂

上村哲弥

大和田 顕

子を喪へる親の心

両親再教育と子供研究

生命を育むもの ― 続・親たるの道 ―

子供の育て方全集 (主婦之友付録)

母心による教育

家庭教育の指標・母一母子講座 (第三巻)

母性読本

現代もの知り百科辞典 [育児の心得]

婦女界 三月号 特集・母となるまで

家庭文化 (育児)

愛児の教育相談

幼児の生活と教育

若き母に贈る

父・母の書

母心

教育者としての母

母に答ふ

国防婦人読本・家庭教育篇

働く女性の修養 [母のこころと子]

育児通信・第一信 第七信

母の相談相手・愛児の実際の導き方 (婦人倶楽部六月号附録)

子を思ふ

親たるの道 (改訂版)

育児相談・母の読本

岩波書店

日本両親再教育協会

日本両親再教育協会

主婦之友社

宗教教育図書刊行会

非凡閣

実業之日本社

大洋社

婦女界社

厚德書院

培風館

婦人之友社

教材社

教材社

偕成社

主婦之友社

平凡社

台北陸軍兵事部内

帝国講学会

東京市役所

大日本雄弁会講談社

平凡社

日本両親再教育協会・第一公論社

慶応出版

発行年

著者名

書名 (記載項目)

出版社

16 (1941)

愛育会 編

岡村匡造

友松円諦

児玉九十

後藤岩男

中村幸雄

石川武美 編

波多野完治

霜田静志

紀平正美 他

主婦之友社 編

飛田しげ子

マリイ・ストープス

鈴木藤太郎

前田若尾

市橋善之助

今村正一

蜂尾正次

標準育児講座 (全三巻)

愛育のこころ

日本の家庭教育

父心

両親教育 (増補改訂版)

伸び行け子供

育児宝典

婦人衛生と育児 (主婦之友花嫁講座)

子供達の気持

叱らずに子供を良くする導き方

児童生活研究

母の愛育全集 (全5巻)

(1) 乳児の巻

(2) 幼児の巻

(3) 児童の巻 (上)

(4) 児童の巻 (下)

(5) 少年少女の巻

子に学ぶ母の記

母よ賢明なれ

子供記

皇国女鑑 (賢母)

幼児教育論

最新家庭教育

女性の生活と科学

主婦之友 五月号 (妊娠と安産と新育児法)

朝日新聞社

三省堂

新小説社

偕成社

主婦之友社

第一公論社

わかもと本舗栄養と育児の会

主婦之友社

第一公論社

主婦之友社

小学館

主婦之友社

主婦之友社

日本公論社

甲鳥書林

明治書院

三笠書房

偕成社

新大衆社

主婦之友社

17
(1942)

朝日新聞社 編	主婦之友 九月号 (育児報国号)	主婦之友社
霜田静志	生活の科学 (小児衛生の巻)	朝日新聞社
広島英夫 編	子供を賢くする導き方	主婦之友社
アーサー・フランク・ペーレン	最新・育児読本	朝日新聞社
アンナ・フロイド	好ましき両親 (日本両親再教育協会版)	第一公論社
伊藤きみ子	児童心理分析講話	東京精神分析学研究所出版部
河西三重子	女性教養日記 (今後の育児方針は先づ健康)	帝国書籍協会
小林金太郎	家庭常識便覧 (産婦と嬰兒の巻)	天泉社
大槻憲二	童心は語る	霞ヶ関書房
霜田静志	育児と教育 (新日本の父母の科学書)	昭和書房
齊藤文雄	子供の躾け方	主婦之友社
上沢謙治	父親と育児	羽田書店
高橋みち	母のため・赤ちゃんばなし	厚生閣
飛田多喜雄	乳幼児の養護	朝日新聞社
西原慶一	国の子の家庭教育	新潮社
高瀬安貞	言葉の躾	厚生閣
日本両親再教育協会 編	愛児のしつけ方	培風館
依田 新	新子供研究講座 (全三巻)	第一公論社
石井 満	子供の性格教育 (母性読本第四編)	厚德書院
青木誠四郎	新女性訓 (母たるのよろこび)	時代社
前田偉男	家庭における子供の鍛錬	主婦之友社
安藤圭助	親心子心	第一公論社
野村武夫	国民学校・ヨイコドもの躾	啓文社
	愛児と教養	立命館出版部

発行年	著者名	書名 (記載項目)	出版社
18 (1943)	本田正信	鯉物語	三井出版商会
	小住七五三	お母さんは	清水書房
	田中寛一 編	愛児の導き方	培風館
	高田義一郎	愛児と共に	教育学習社
	林 俊一	農村の母性と乳幼児	朝日新聞社
	瀧 愿	興亜の保健 [婦女の衛生と育児]	保健協会
	糟谷つたゑ	産院日記	汎東洋社
	愛育会 他 編	保健婦読本 [環境衛生編]	刀江書院
	厚生研究会 編著	現代・家庭医学精典 増補版 [小児保健]	国民図書協会出版部
	厚生省人口局	育児指針 (母子保護資料第四卷)	厚生省人口局
	長谷川 瑞	国民学校・鯉の道	啓文社
	江尻 容	子供のからだの鍛へ方	光生館
	大西伍一	子に詫びる	翼賛図書刊行会
	岸 武雄	鯉のこころ	啓文社
	福島政雄	母性教育論	藤井書店
	下村湖人	青少年のために	小山書店
	大友 茂	母子相念ふ	平凡社
	武政太郎	幼児の心理と教育	藤井書店
	武田勘治	日本の鯉	三教書院
	ジェラルド・ドゥヴィル	赤ちゃん (平野威馬雄訳)	若い人社
	長野県農会	農村婦人宝典 [妊娠と育児]	長野県農会
	牛島義友	愛育の玩具	協同公社出版部
	都築益世	良いあそび強いからだ	文松堂書店

19
(1944)

伊藤逸平

竹下直之・村岡花子他 編纂

三田谷 啓

細川武子

伊福部敬子

岡崎文規

杉山 穰

丹 潔

三木安正

岡本詰二

高谷 淳

大阪府厚生会館

山下俊郎

下間登良男

関 猛・功刀よし子

西沢 巖 編

小林 彰決

高島平三郎

守屋光雄

大日本婦人会 編

栗山重信

福島政雄

内藤寿七郎

築田多吉 編

こどものくに

子どもとはどんなものか(わが子の教育叢書・第一巻)

愛育の書

父と母と子

母の世紀の序

戦時下の乳幼児保護問題

日本の家風と子供の躾け方

日本子供訓

乳幼児の保育

戦時下の育児法

やさしい育児問答

乳児死亡の実態 岸和田市に於ける調査

幼児の家庭教育

童心歳時記

幼児の遊びと指導

農村共同炊事と育児と栄養

戦下の育児

新日本女性に寄す〔母の愛と子供〕

乳幼児心理学

妊産婦の保健(大日本婦人会叢書第六輯)

子供の育て方

母性教育論

主婦之友・二月号(特輯 これからの育児法)

ハンドブック・子供の病気の家庭手当と看護

玄光社

帝国教育会出版部

愛之事業社

有光社

萌文社

一元社

研究社出版

雄生閣

柴山教育出版社

紙硯社

玄久社

大阪出版社

大理書房

新興出版

照林堂書店

昭和刊行会

東京社

国民教育普及会

内外出版印刷株式会社

国民図書刊行会

厚生省体力局

福村書店

主婦之友社

ハンドブック社

21
(1946)
(刊
不明年)

発行年	著者名	書名〔記載項目〕	出版社
22 (1947)	佐藤 久	主婦之友・七八月号 (家庭教育の再建)	主婦之友社
	霜田静志	乳幼児体操の実際	婦人之友社
	斉藤文雄	新版・母の書	真光社
	斉藤文雄	母の育児書	主婦之友社
	村田喜一・田中義一	大切な赤ちゃん (日本赤十字社編)	二宮書店
	斉藤文雄・小林彰	主婦之友・二月号 (特輯 妊娠と安産の心得)	主婦之友社
	高井俊夫	乳と乳幼児の栄養学	雄山閣
	木田文夫	育児実習書	栗林書房
	中等学校教科書	育児の常識 (家庭科学教室)	生活科学化協会
	古谷綱武	体質と神経質	金子書房
	飛田多喜雄	育児 (文部省検定済教科書)	中等学校教科書
23 (1948)	稲川三郎	若き母のために	光文社
	霜田静志	幼児の言語教育	巖松堂書店
	霜田静志	新しい子供の躾け方	日本講演協会
	尾高豊作	幼児の心理と教育	真光社
	竹内茂代	幼児の遊びと保育	真光社
	山本康裕	指導読本・子供の心理	刀江書院
	山本康裕	一般育児学	厚星社
	中川一郎	育児の常識	壮文社
	氏家寿子	小児科学 (初版昭和2)	南江堂
	根岸早苗	小児栄養学	南江堂
		育児と衣服	小峰書店
		農村乳児保育	巖松堂

24
(1949)

- | | | |
|------------|-----------------------|-----------|
| 安藤画一・中鉢不二郎 | 出産と育児(家庭講座第一卷) | 主婦之友社 |
| 牛島義友 | 不良化傾向の早期発見 | 金子書房 |
| 倉橋惣三 | 新版・育ての心 | 乾元社 |
| 瀧沢文子 | 子に生きる母の日記 | 真光社 |
| 波多野勤子 | わが子の成長と躾け | 真光社 |
| 鈴木義一 | 新妻読本・受胎から出産まで | 松和書房 |
| 副島ハマ | 子供と母親の製作玩具 | 片井商会出版部 |
| 伊福部敬 | 子供をまもる・児童福祉法の解説 | 千代田出版社 |
| 鈴木慎一 | 才能教育 | 才能教育研究会 |
| 日本赤十字社 編纂 | 家庭看護(赤ん坊の最初の一年) | 日本赤十字社 |
| 日本放送出版協会 編 | ラジオの主婦日記(育児篇) | 有楽出版社 |
| 高谷 淳 | 増訂・育児と看護 | 高島屋出版部 |
| 松田道雄 | 赤ん坊の科学 | 創元社 |
| 牛島義友 他 | 乳幼児精神発達検査 | 金子書房 |
| 中鉢不二郎 | 離乳期の栄養法と栄養障害の療法 | 医事出版 |
| 守屋光雄 | 育児心理学 | 臼井書房 |
| 斉藤文雄・小林彰 | 新訂・育児実習書 | 栗林書房 |
| 東京都 | 母子手帳 | 東京都 |
| 湯川茂助 | 子供の正しい育て方 | 福岡県・湯川茂助方 |
| 長竹正春 | ひよわな幼な子の育て方 | 真光社 |
| | お産と育児新書(主婦と生活四月号附録) | 主婦と生活社 |
| | 妊娠・安産・育児法(婦人倶楽部三月号附録) | 大日本雄弁会講談社 |
| | 妊産婦保健指針 | 恩賜財団母子愛育会 |
| 厚生省 監修 | 指導読本・子供の生徳(初版昭和11) | 刀江書院 |
| 尾高豊作 | | |

発行年	著者名	書名〔記載項目〕	出版社
25 (1950)	尾高豊作	指導読本・子供の生活(初版昭和10)	刀江書院
	齊藤文雄 他	新編・育児(文部省検定済教科書・高校家庭科用)	中教出版
	高崎能樹	子供の個性と癖	草美社
	垣内芳子 編	こどもとレクリエーション	印刷局
	野村芳兵衛	あすの子供	岐阜教育図書
	平間孝三	子供の躰	修教社
	稲田龍吉・塩田広重 編	家庭の医学〔乳幼児の育て方〕	時事通信社
	厚生省児童局 編纂	小児保健指針	恩賜財団母子愛育会
	高口保明	丈夫な赤ちゃんの育て方・正しいしつけと病気の手当	講談社
	京都市児童院	ふた親のために	京都市児童院
	長竹正春	新小児保健	寧楽書房
	トリス	乳児及び幼児の教育	新教育協会
	波多野勤子	少年期	光文社
	大島秀一	あなたを幸福にする・新しい婦人の処世読本(主婦と生活附録) 〔新時代の子供を教育する母の心得〕	主婦と生活社
	奈良女子大付属小学校	正しいしつけ	秀英出版
	森田宗一	この小さき者に・少年少女の問題をめぐって	大日本出版株式会社
	長里 清	児童問題と新教育 ―子供への理解・保健・教育―	学芸図書出版社
	長谷川初音	いろは育児漫談	芦屋打出教会出版部
	雨宮保衛・柴田観山 ルエーシュ	主婦之友 二月号(特集・わが子の家庭教育) 主婦之友 三月号(特集・育児の急所と病気の手当) 子を救うための応急手当 附録・育児法 児童の社会衛生	主婦之友社 主婦之友社 戦災孤児援護協会 新人社

26
(1951)

堀 要

真銅捨三

児童研究会

上田・波多野・山下 他

米国政府児童局

米国政府児童局

米国政府児童局 編

花岡・乾・早川 他

母子愛育会 他

古川 原

文部省

オハイオ州立大付属学校

波多野勤子

町井彦四郎

瀧沢文子

苦瓜恵三郎

荒木三作 編

青木誠四郎 監修

丸山敏雄

厚生省児童局 編

斉藤・円城寺 他

H・ヘルヴェク

岩堀至道

幼児の精神衛生 誰にもできる正しいしつけ

親こゝろ

叱り方とほめ方 (児童問題新書2)

新しいしつけ

あなたのお子さん・育児教育読本・一才から六才まで

あなたのお子さん・育児教育読本・六才から十二才まで

思春期

新しいしつけのしかた

今日のしつけ — 新しい日本人の誕生 —

北陸農村の母と子の実態

家庭教育論

小学校における家庭生活指導の手びき

子供たちはどのように発達するか

幼年期 発達にはいろんな型がある

子供の心と育て方

幸福な母 — 三人の子とともに —

わが子の早教育

処女と妻の衛生新書 (婦人倶楽部十二月号付録)

新しく入学するわが児のために — 入学前の生活指導 —

育児の書

保育指針

育児全書

わが子の教育

父母の在り方

黎明書房

不二書房

金子書房

金子書房

実業之日本社

実業之日本社

雄鶏社

双龍社

三啓社

母子愛育会

国土社

明治図書

新教育協会

光文社

長崎県教育研修所

乾元社

日本出版協同株式会社

大日本雄弁会講談社

暁教育図書株式会社

新世書房

日本児童協会

主婦の友社

エンデルレ書店

池田書店

東京都	母子手帳	東京都
松村康平	幼児の教育(教育文庫)	金子書房
丸岡秀子・乾孝 他	こどものしつけ(農村のこどもたち・2)	大蔵省印刷局
児童問題研究所	やさしい家庭の教育学	東京学芸社
山下俊郎 監	赤ちゃん——誕生日まで——(岩波写真文庫)	岩波書店
近代女性社・佐藤伸子	最新・婦人の常識〔育児の急所〕	日本女子教育会
武政太郎監修	愛児の知能の伸ばし方	三友書房
佐藤・波多野 編著	入学前後の子供の導き方	三友書房
守屋光雄	幼稚園児	金子書房
オールソン、ケイザー	保健婦指導読本	メヂカルフレンド社
厚生省児童局 編	こどもはこうして育てる	全国社会福祉協議会連合会
高口保明	出産と育児(岩波婦人叢書)	岩波書店
松田道雄	家族の健康(岩波婦人叢書)〔赤ん坊・幼児・児童〕	岩波書店
矢島祐利・せい子	家事と雑用(岩波婦人叢書)〔育児〕	岩波書店
金子近次	美しくかしいお母さん	東和社
武政太郎	愛児の知能テスト	講談社
横山美智子	現実の子ども	明治図書
堀 要	保育のための精神衛生学	厚生閣
谷口雅春	優良児を作る	日本教文館
成蹊小学校	わが子の導きかた(家庭教育事典・高学年)	学芸書院
リスベート・ブルゲル	助産婦の手記	中央出版社
前波伸子	改訂新版・女性宝鑑〔新しい育児〕	京北書房
小林 操	幼児とおかあさん——新しい愛児の導き方——	東京幼年問題研究所

29
(1954)

自由国民編集局
森本 栄 編
森本 栄 編集
青木誠四郎 他編
波多野勤子
和田 清

羽仁説子 他編

山下俊郎

丸山敏雄

佐瀬 恒

乾 孝 他

西原慶一

吉田小五郎 編

児玉・阪本・鈴木 編

30
(1955)

山本康裕

木田文夫

F・ダンバー

ヒルデ・ブルッフ

伏木卓也

原田常治 編集

斎藤次郎

木田文夫

頭をよくする方法と処世の技術(せめて我が子の頭をよくしよう)

結婚・妊娠・育児全書(主婦の友二月号付録)

ママさんのための・赤ちゃん百科事典(主婦の友八月号付録)

母の事典

幼児の心理

幼児の教育

児童問題講座 全5巻

児童相談 子供をよくする心理学

学童愛育の書

愛の相談室 家庭での子どものしつけ方

よい子にするために・子供の幸福を守る相談

子どもと環境

父母に語る ―愛児のしつけと生活―

赤ちゃん(家庭読売別冊・読売家庭文庫)

幼児・児童教育講座(全5巻)

小児科学総論(初版昭和7)

上手な育児・下手な育児

子どもの心とからだ

あなたの子どもをこわがるな

子供の七癖

赤ちゃんの新しい育て方(主婦と生活付録)

誕生から入学まで・愛児の育て方全集(婦人生活八月号付録)

妊娠より育児まで

こども部屋

自由国民社

主婦の友社

主婦の友社

小学館

光文社

科野幼児教育研究会

新評論社

光文社

新世書房

教育書林

厚文社

新思潮社

慶友社

読売新聞社

福村書店

南江堂

婦人画報社

日本評論新社

日本評論新社

新潮社

主婦と生活社

同志社

鷺ノ宮書房

文芸春秋社

発行年	著者名	書名〔記載項目〕	出版社
	滑川道夫	新しいしつけ	明治図書
	清 健介	実用百科良識事典〔子供の躾けと導き方〕	祥文社
		婦人の新生活〔子どもを知る〕	長野県農村文化協会
	母子愛育会小児保健部会 編	小児保健指針(改訂第6版)	日本小児医事出版社
	獅子文六 他	親馬鹿読本	鱒書房
31 (1956)	波多野勤子 編	母の問題・子の問題(婦人倶楽部三月号付録)	大日本雄弁会講談社
		子供をよくする百問百答(自由国民・家庭版)	自由国民社
	三宅・中鉢 他	育児学新書	金芳堂
	神奈川県	母子手帳	神奈川県
	長田・山下・莊司	日本の幼児教育―その問題点をめぐりて―	フレーベル館
	吉田正吉	児童 その心理と精神衛生	博文社
	勝田守一・国分一太郎	お母さんから先生への一〇〇の質問	中央公論社
	内藤寿七郎	子供の病気	主婦の友社
	上田柳子 監修	女学生図解・家庭科辞典〔保育〕	小学館
32 (1957)	稲田竜吉・塩田広重 監修	改訂増補・家庭の医学〔乳幼児の育て方〕(初版昭和24)	時事通信社
	森山 豊	結婚と出産	主婦の友社
	中 脩三	できる子供・できない子供(増補改訂版・初版昭和26)	慶応通信
	大槻憲二	才能の発見と伸ばし方	池田書店
	木田文夫	これからの育児・これからの家庭	婦人画報社
	松本順之	学習としつけの科学	新光閣書店
	平井信義	話し合いの育児	麦書房
33 (1958)	産業経済新聞婦人部 編	暮らしの百科〔子供の育て方 他〕	実用図書刊行会
	井上・柏木・津田	育児学概要	高陵社書店

35 (1960)	34 (1959)
緒方安雄 謝 国権 ラジオ東京ラジオ教養部 滑川道夫 恩賜財団母子愛育会 編著 伊賀郁雄 勝田守一・伊藤忠彦 他編 トミサワ イサオ 堀 要 石三次郎 監修 生活科学調査会 母子愛育会乳 中鉢不二郎	赤ちゃんの健康 お産 あなたの子もここにいる・いまの子の心とその生活(ルボ) 新しい家庭のしつけ 育児と病気の相談 幼き生命 ―愛と信頼の育児法― 親に語るしつけの本 一姫二郎考 あなたは男の子・女の子が生みわけられる 厳しいしつけ甘いしつけ 若いおかあさんのための・子どものしつけ53週(小学校一二年版) 幼児の生理と心理 幼児保健指針(初版昭和25) 実験育児学 赤ちゃんの育て方(婦人生活付録) 子どものころ ―そのしつけ方と勉強のさせ方― 父親白書 親と子と教師のモラル 家の光 十二月号(寒さに負けない赤ちゃんの育て方) 家庭教育 一歳から青年期まで 私は赤ちゃん はじめての赤ちゃん ベビーブック・4・ベビーコーナー篇 しつけのメモ 育児学
アルキン 松田道雄 緒方安雄 木田・内藤・山下 滑川道夫 M・ルロン	実業の日本社 池田書店 麦書房 明治図書 岩崎書店 六月社 明治図書 緑園書房 黎明書房 アジア出版社 医歯薬出版 日本小児医事出版 同文書院 婦人生活社 博文社 医歯薬出版 新教育者連盟 家の光協会 三一書房 岩波書店 実業の日本社 中央公論社 牧書店 白水社

発行年	著者名	書名〔記載項目〕	出版社
36 (1961)	宮田丈夫	新しい道徳としつけ方	大阪教育図書
	三条信宏	新しい人生百科事典〔初めての赤ちゃんを上手に育てるには〕	省文社
	前波伸子	愛される生活法 女性幸福の条件〔親子のあり方〕	光伸社
	品川不二郎	勉強好きにする導き方〔子どものもんだいシリーズ2〕	国土社
	品川孝子	反抗期の導きかた〔子どものもんだいシリーズ10〕	国土社
	石田・森田・蜂屋	マスコミは子どもを変えろ	大阪教育図書
	松田道雄	私は二歳	岩波書店
	山下俊郎	保育学概説	厚生閣
	沢田慶輔・小山田三郎	新しい勉強のしかた	普通社
	玉井・平井・宮崎	赤ちゃんから幼稚園まで・子どもとともに	読売新聞社
	加藤常吉	子どもの生理と心理	主婦の友社
	笹子修三	働く人々の百科事典〔初めての幼児のしつけ方〕	邦侑社
37 (1962)	主婦の友社	赤ちゃん百科	主婦の友社
	高瀬広居	パパの育児手帖	弘文堂
	内藤・宮崎 他	最新育児学	東京同文書院
	豊田・高山・加藤	新育児学	南山堂
	黒田 薫	赤ちゃんの食事	三六書房
	橋爪貞雄	変わりゆく家庭と教育・団地文化が予見するもの	黎明書房
	秋山ちえ子	しあわせな子どものゆくすえ	文芸春秋新社
	阿部 進	現代っ子採点法	三一書房
	橋本英一監修	女性の常識百科〔若いママとパパのための赤ちゃんの育て方〕	日本女子教育会
	婦人生活出版部 編	ママの育児相談	同志社
38 (1963)	山下俊郎 編著	子どもの生命を守るしつけ	日本評論新社

39
(1964)

- | | | |
|-------------|---------------------------------|-----------|
| 丸山修司 | 母と子供 | 善隣厚生会 |
| 山下俊郎 | ひとりっ子の心理と教育 | 牧書店 |
| 毎日新聞社 編 | 新しいしつけ | 毎日新聞社 |
| S・ファビアン | 母と子の世界 | 筑摩書房 |
| R・E・ネルソン | 母となる方へ | 福音社 |
| 松田道雄 | 小児科医の眼 | 文芸春秋新社 |
| 波多野勤子 | 幼児の心理 あなたのお子さんはすばしくなる | 光文社 |
| 稲葉美佐子 | はじめての赤ちゃん おなかの中から育児がはじまる | 光文社 |
| 生活教育研究会 編 | くらしの百科・若き女性のために (妊娠・出産と育児) | 光文書院 |
| 棚橋武男 編 | 優秀児をつくる本・幼児から低学年まで (主婦と生活四月号付録) | 主婦と生活社 |
| 婦人倶楽部編集部 編 | 育児日記 (新訂版) | 講談社 |
| 松田道雄 | こんなときお母さんはどうしたら良いか | 暮しの手帖社 |
| 松田道雄 | 巨視的しつけ法 | 筑摩書房 |
| 松田道雄 | 母親のための人生論 | 岩波書店 |
| 宮川 秋 | 妊娠と安産育児 | 金園社 |
| 緒方孝雄 | はじめての妊娠・出産・育児 | 泰光社 |
| 高岡 他編 | 育児学 | 建帛社 |
| 宮下正美 | お母さんボクこうして欲しいの ママのためのしつけのカギ | 保健同人社 |
| 品川不二郎・高塚暁 編 | 親のための教育百科 | 三一書房 |
| 今村・中山 他 | 健康な赤ちゃん | 社会保健法規研究会 |
| 朝日新聞社会部 編 | あすへの教育 幼年編 | 朝日新聞社 |
| 教養女性文化会 | 増補新版・女性百科宝典(赤ちゃんの育て方・子供のしつけ方) | 東京図書通信社 |
| 厚生省児童家庭局 監修 | 子どもの精神発達としつけ(母親学級指導者必携・乳幼児編) | 日本児童福祉協会 |
| 森田宗一・良子 | しつけの再発見 ―少年裁判官と小児科医の眼― | 日本経済新聞社 |

清水えみ子

ちがうぼくととりかえて

童心社

下出智子

集団育児

紀伊国屋書店

平井信義

育児学

光生館

高橋悦二郎

生まれて1ヶ月から4ヶ月までの育児(育児のシリーズ1)

コドモを育てる母の会

曾根秀子

生まれて5ヶ月から9ヶ月までの育児(育児のシリーズ2)

コドモを育てる母の会

佐野良五郎

生まれて10ヶ月から1年半までの育児(育児のシリーズ3)

コドモを育てる母の会

小林治夫

幼児のしつけとあそび(育児のシリーズ4)

コドモを育てる母の会

山内 愛

他幼児の心とからだを健康に育てる食事の話(育児のシリーズ5)

コドモを育てる母の会

松島富之助

病気や事故からコドモをまもるには(育児のシリーズ6)

コドモを育てる母の会

40 (1965)

笠井 和

育児学

厚生閣

松田道雄

私の幼児教育論

岩波書店

沢田慶輔

新しい家庭の教育

全日本教育父母会議

品川孝子

三歳までにこれだけは・赤ちゃんからの心理としつけ

あすなろ書房

鯉坂二夫

子どもの家庭教育

筑摩書房

羽仁進・左幸子

ゼロ歳の記録

朝日新聞社

平井・品川・小泉

しつけの相談室

東京心理株式会社

41 (1966)

早川元一

きつと優秀児を・妊娠と安産(主婦の友九月号付録)

主婦の友社

勝田・山住・松田

子どもの性格づくり

主婦の友社

吉田とら

家庭の教育・2・幼年期

岩波書店

遠城寺宗徳

かあちゃんと11人の子ども

光文社

平井信義

強い子弱い子・育児と医学と教育

慶応通信

B・スポック

発達と育児からみた児童学

家政教育社

暮しの手帖社

42
(1987)

松田道雄

大渡 肇 編

婦人之友編集部

巷野・塙・山本

女子栄養大学出版部 編

読売新聞社 編

林 霽

鈴木道太 編

遠城寺宗徳 他

育児の百科

赤ちゃんの育て方百科

赤ちゃんの発達(60人の母の記録と発見・満一才まで)

妊娠と出産の百科

こちら小児科

元気な赤ちゃん(育児・栄養ブックス1)

英才教育 あなたの子どもの能力開発

頭の良い子に育てる本

成功したわが家のしつけ

育児指導学

岩波書店

保健同人社

婦人之友社

保健同人社

文芸春秋

女子栄養大学出版部

読売新聞社

金剛出版

明治図書

医学書院